

## (第一篇)

ビンロウは、ヤシ科の常緑高木で、アジア太平洋一帯に広く生息している植物だ。

以前台湾新幹線に乗り、台中を過ぎたところから目立つようになる背の高い木々を見て、「台湾の南部って、ヤシの木ばかりで、ハワイみたいな南国だね！」と騒いだら、一緒にいた台湾通の日本人に「あれ全部ビンロウだよ」と教えられたことがある。確かに近寄ってきちんと見れば違う。ヤシの木に比べ、だいぶ幹は細く、葉の生い茂り具合も幾分いくぶん寂しい。てっぺんに白い小さな花を咲かせ、どんぐり大の実をたわわに結ぶ。

台湾の街でよく見かける「檳榔」の看板で気が付くと思うが、台湾には独特のビンロウ文化が根づいている。

ビンロウ店では、ビンロウの実を、少量の石灰を塗布した蔓科の荖藤の葉で包んで売っている。石灰にはビンロウから興奮作用のあるアルカロイド成分を引き出す効果があるらしい。価格はだいたい1パック10個入りで50元（約170円）前後だろうか。

中国の伝説の美女・西施に例えて「ビンロウ西施」と呼ばれ、限りなく下着姿に近い格好をしたセクシーな女性が一坪ほどのガラス張りの店内でせっせとビンロウを包み、通りに寄せた車の車内か

ら「1包！」と声を上げる購入者まで運んであげるサービスが有名だ。

楊さんのお店はこの手のセクシービンロウ店ではないので、ビンロウ西施はいない。日本で言う街角のタバコ屋さんといった風情だろうか。

(2014 年 8 月新潮社出版、一青妙、『私の台南—ほんとうの台湾に  
に会う旅』より) p88, 89